

令和元年度第7回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「新たな時代に対応した魅力ある高等学校づくり～地域を担う人材の育成～」
- 2 日時：令和2年1月9日（木）13：30～
- 3 場所：津山東高等学校 多目的室（津山市林田1200番地）
- 4 参加者：津山市内県立高校4校による連携講座「地域創生学」に参加した生徒や教諭、講座にご協力いただいた地域で活動する方々：8名
- 5 知事挨拶

津山市内の県立高校4校が一緒になって講座を行っているが、高校までに地元のことをどれだけ勉強しているか、地元とどのように関わっているかで、ものの見方や捉え方が違ってくる。地域にとって高校の存在は大きく、地域のまとまりの核として、高校に頑張ってもらいたいというニーズは大きい。

6 発言要旨

【四校連携講座「地域創生学」について】

- ・津山市内の県立高校4校（津山、津山東、津山工業、津山商業）が、平成29年度に開設した学校設定科目で、今年度で3回目になる。夏期休業中に5日間行った。
- ・美作地域が抱える諸課題を発見する力を育み、課題解決に向けて行動できる様々な力を有した「将来の地域を担う人材」の育成を目指す。
- ・今年度のテーマは、「津山市の移住定住について考える」。
- ・1日目は、フィールドワークを行う上での心構えについての基調講演、津山市の現状と課題についての行政説明等。2、3日目はフィールドワーク、4、5日目の午前中にグループごとに提言を作成、5日目の午後に発表。
- ・受講生徒の代表が、津山市長に提言書を提出した他、様々な場で、講座での取組について発表している。
- ・この講座を持続可能なものにしていくためには、外部講師として、各校共通の地域コーディネーターを導入することが不可欠。
- ・地域の大人たちが、高校生を一人の大人として扱い、一緒になって地域づくりを行っていくことが大切。

【自己紹介など】

- ・美作市上山地区で棚田の再生、キャンプ場の管理、津山東高校の地域コーディネーターをしている。自分が体を動かし、地域の活性化を進めたい。
- ・四校連携講座に参加した高校生で、津山市城西地域のボランティアリーダー。活動を進めていく中で、人前で話すことが得意になってきた。
- ・四校連携講座に参加した高校生。ボランティアや、四校連携講座に参加することで、地域に対する思いが変わってきた。地域について積極的に考える高校生が増えてほしい。
- ・高校教員で、今年度の四校連携講座の事務局を務めた。学校内だけでなく、地域

とつながりながら、子どもたちを育てていきたい。

- ・公民館の館長。夫が津山市出身で津山市に移住した。岡山県モデル事業で地区防災計画の策定も行っている。
- ・介護と演劇を結びつけた劇団を主宰。認知症の方との関わり方を考えるワークショップ、教育現場で演劇ワークショップを行っている。
- ・津山市役所職員。今年度は、小中学校の ICT 機器の整備を担当している。昨年度は、高校生とともに地域企業プロモーションビデオの撮影を行った。
- ・建築家。妻が津山市出身で津山市に移住した。建物をつくる仕事の他に、企業の雇用の悩み相談等も行っている。

【活動を通じて思ったこと】

- ・高校魅力化のためには、高校生に面白い体験、本質的な学びを提供できるかが大切だ。本質的な学びという点では、高校生がいかに本物と出会うかが重要になる。大人が、高校生を大人として扱わなければならない。高校生自身が大人として行動することで自分事として動くことができるようになる。
- ・中学校までは、ボランティアに積極的に参加しなかったが、高校に入り、先輩が楽しそうにやっていたので始めた。ボランティアをやってみて、地域の人が高校生である私たちを必要としてくれていること、期待してくれていることが分かった。地域に出て行くことに積極的ではない高校生もいる。地域の人たちと一緒に活動を広めていきたい。
- ・四校連携講座は楽しかった。意見をまとめるときに、他校の生徒は自分とは違う価値観、知識を持っていて、新しい発見があった。活動を通して、津山の観光を変えてみたいという思いを持つようになった。
- ・自分たちが行った提言が、実現に向けて動き出すとは思っていなかった。若者が本気で考えて声を上げれば、大人は聞いてくれるし、高校生も地域づくりに参加することができるかと実感できた。
- ・四校連携講座を通して、様々なことを体験し、高校生が変わってくれたのがうれしい。
- ・高校生はすごい力を持っているが、高校生自身が気付いていない。地域の人、校外の大人たちが高校生にそのことを気付かせてほしい。それによって、生徒の自己肯定感が高まったり、自分のやりたいことがもっと見えたりしてくるのではないかと考えている。
- ・大人側が高校生を一人前の大人として受け入れるべきだ。高校生が、いろいろな人と関わり、自分の中の光るものを見つけて、自分の力を最大限発揮してほしい。
- ・活動した生徒の中には、防災を学ぶため大学へ進学した者や、公務員になろうという目標を持つ者もいる。若者が、社会を知って地域とつながっていくことは大事なことだ。
- ・津山市城西地区では、高齢者に「きょういく（今日行く場所）と教養」をいかに皆でつくっていくかが大切だと話している。高校生にもこういった場に参加してもらいたい。
- ・教育や介護になぜ演劇なのかと問われることがあるが、子どもたちや高齢者が「役

を得ること」が大事だと考えている。演劇ワークショップでは、中高校生は、うまく演技できないことが多い。社会生活の中で役を演じた経験が少ないからだ。中高生は、知らない人との対話の経験が少ない。四校連携講座は、自分の知らない他校や地域の人との対話を経験できる場になっている。

- ・昨年度の地域企業プロモーションビデオの制作では、高校生が責任感を持って取り組んでくれた。完成したビデオを見た企業の方々も感動していた。
- ・四校連携講座の提言を市の事業に生かしていきたい。
- ・地域には、魅力ある経営者がいて魅力ある企業がある。地域のエネルギーと高校生のエネルギーが、混然とした中で一体となる状況ができれば岡山県全体の魅力化につながると思う。

【自治体への要望等】

- ・高校への期待が大きくなってきているが、高校の先生、生徒の負担になりすぎてもいけない。そのために、地域コーディネーターが必要だが、それ以外にも地域が高校生を受け入れる土壌ができていれば、高校生が、より多くの人と関わり、いろいろな経験ができると思う。
- ・地域には魅力ある人がたくさんいる。そういった人たちと高校生とをつないでいかなければならないが、教員は転勤もあり、学校だけで行うことは難しい。民間人や地域コーディネーターに入ってもらいたい。
- ・津山市内の高校に共通の地域コーディネーターを置き、地域との調整を行うのがよい。
- ・津山市では「夏のボランティア」に、希望する中学生が参加しているが、夏休みのボランティアを必須にすれば、地域とつながるきっかけになると思う。
- ・四校連携講座のような取組が広がればよい。中学高校時代に出会ったものが人生を変えることがある。

7 知事まとめ

- ・地域のことを考え、学んでもらい、その上で若い人が地元に残って仕事をしてくれれば一番良いが、若い人が外の世界を見たいという思いを持つことは自然なことだ。県外に出て勉強してパワーアップして、地元に戻ってくるのが理想だ。
- ・県外に出る前に、地域のことを十分理解し、地域の人たちとの関わりを持ってもらいたい。
- ・地域での学びを通じて、高校生が生き生きとしてくることは、大変良いことだ。四校連携講座の取組は全県、全国に対して良い提案になると思う。